

東日本大震災から新たな防災へ

東日本大震災という未曾有の災害は、
私たちに防災のあり方の見直しを迫ることとなった。
災害対策基本法が既に一部改正され、地域防災計画を見直した自治体も多い。
どのような取組みが進んでいるか、どのような取組みを進めるべきか。
横浜国立大学で始まった災害をめぐる文理融合型の研究、
災害社会学の専門家による県内での実践活動や知見・研究、
神奈川県内の津波想定の見直し、
東日本大震災の被災地・被災者支援に貢献しているボランティア活動などから、
これからの防災、災害対応を考える。

「災害を乗り越える地域づくり」に向けて
●
災害に対応した自立分散型の拠点をつくる

●
地域防災活動におけるレジリエンス
～川崎市多摩区中野島町会「防災マップ」づくりの事例から～

●
神奈川県（県土整備局）の津波浸水予測の再検証と
今後の津波対策の取組みについて

●
災害とボランティア
～かながわ東日本大震災ボランティアステーション事業から考える～
